

2019 全国骨髓バンク ボランティアの集い in 山形

未来へつなぐ 命 と 心 の バトン

5月18日(土)

13:30 ~ 17:45

(開場 13:00)

入場無料

山形県/天童温泉 美味求真の宿

天童ホテル

山形県天童市鎌田本町2丁目1-3 TEL 023-654-5511

●山形北ICより車で約15分 ●JR天童駅より車で約4分

●山形空港よりタクシーで約15分



プログラム

第1部 式典

第2部 パネルディスカッション

人生のターニングポイント

~私の歩んできた道、そしてこれから~

出演者/山形大学大学院 医学系研究科 内科学第三講座

血液・細胞治療内科学分野 石澤 賢一先生

EnGene. Shin氏 布施 諒氏

小野 卓也氏 佐藤 大輔氏

小野寺 南波子(骨髓バンクを支援するやまがたの会会長)

コーディネーター/山科 慎治(骨髓バンクを支援するやまがたの会)

第3部 フォーラム

心のバリアフリーセミナー

(一社)山形バリアフリー観光ツアーセンター

代表理事 加藤 健一氏



ラストソング EnGene. SPECIAL LIVE

17:25 ~

EnGene.
(Yutaka, Tatsuya, Shin)



主催/特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会

主管/骨髓バンクを支援するやまがたの会

共催/公益社団法人日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会

後援/厚生労働省、山形県、天童市、骨髓・さい帯血バンク議員連盟、公益財団法人日本骨髓バンク、日本赤十字社、国立大学法人山形大学医学部、
骨髓バンクを支援するやまがたの議員の会、山形県医師会、山形県看護協会、山形県薬剤師会、山形県社会福祉協議会、山形県難病等団体連絡協議会、
山形市市民活動支援センター、山形市市民活動支援センター連絡協議会

お問合せは

特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4 KTビル3階 TEL 03-5823-6360 FAX 03-5823-6365

骨髓バンクを支援するやまがたの会 〒990-0037 山形県山形市八日町1-3-45 TEL・FAX 023-632-7016

facebook も
ご覧ください▶



2019 全国骨髓バンクボランティアの集い in 山形

全国骨髓バンクボランティアの集いは、全国の骨髓バンク支援の推進に携わる関係者やボランティア及び患者家族が一堂に会し、「未来へつなぐ命と心のバトン」の大会スローガンのもと、正しい医療知識を学ぶとともに、患者、ドナーなどお互いの経験や情報を共有し、現状の課題解決に向けた糸口

を見つけ、患者及び患者家族が質の高い人生を送るための提唱を行うことを目的とします。さらに全国の骨髓バンクボランティア団体が相互間での情報共有を図ることにより、骨髓バンクについて一般市民に対する普及啓発が更なる加速を帯びることを目的とし開催させていただきます。

パネルディスカッション「人生のターニングポイント ～私の歩んできた道、そしてこれから～」

患者(移植体験者)、ドナー(骨髓提供者)、ボランティア代表等をパネリストに迎え、それぞれの体験談から移植の問題について切り込み、相互間の理解を深めながら現状の課題の解決に向けた糸口を見つけていきます。

また、医療の最前線のお話を専門的な立場から、山形大学大学院 石澤先生より伺います。



山形大学大学院 医学系研究科 内科学第三講座 血液・細胞治療内科学分野 石澤 賢一 先生

“チーム医療”という言葉は、急速に一般化しました。医療の複雑化、患者さんの背景の多様化により、他職種連携の重要性が強く認識されるようになったためです。現在では医師、看護師、薬剤師、検査技師、ソーシャルワーカー等が一堂に会して、治療方針を決めるのも珍しくはありません。しかし十分な医療は、病院内の連携だけで可能なのでしょうか？ 答えは、否です。それにはボランティアを含めた院外との連携が不可欠で、この集いがその足掛かりになれば幸いです。



EnGene. Shin さん (移植体験者)

2010年に指定難病「再生不良性貧血」を、患い同年、骨髓移植により克服。人との繋がりの大切さに気付かされ、自分の生き方を考えさせられる出来事であったと本人は話す。現在ボーカー・グループEnGeneのメンバーとして諦めかけていた夢のその先を目指して活動中。命を頂いて繋がったご縁への感謝の気持ちを少しずつでもお返しするべく、移植を待っている方の為に骨髓バンク推進のメッセージを届けている。



布施 諒 さん (移植体験者)

2009年、18歳で多発性骨髓腫を発症。自己移植と14歳の弟からの造血幹細胞移植を経て、闘病ののち寛解。現在は偶然にもがん治療用途の装置の開発に携わっている。自身が闘病した体験も踏まえ、より治療効果を高めるべく奮闘中。



小野 卓也 さん (骨髓提供者)

山形県長井市の曹洞宗洞松寺住職。2003年春、30歳時に骨髓提供(移植先は9歳の女の子だったという)。登録は公民館においてあったパンフレットから。前年に長女が生まれ、妻がお腹を痛めて元気な赤ちゃんを産んだのに、自分が何もしていないのは申し訳なく、不公平だと考えたことから提供に踏み切った。2013年に次女が川崎病に罹って血液製剤で治療したことから、現在は年3回の恩返し献血を欠かさないようにしている。



佐藤 大輔 さん (骨髓提供者)

合同会社 天輔メンタルオフィス 代表
心理カウンセラー・経営コンサルタント・メンタルコーチ
昨年2月の骨髓提供経験を通じて感じた制度と実生活とのズレなどをSNSなどで発信。

問題解決のプロとして、海外事例などを参考により良い制度にする一助となることを願っている。



山科 慎治

(コーディネーター・骨髓バンクを支援するやまがたの会)

(公社)日本青年会議所東北地区山形ブロック協議会 2016年度会長。同年、山形県において健常者と障がい者、老若男女、誰もが真に住みよいまちを自らの手によってデザインすることのできる「ユニバーサル社会の実現」をテーマに掲げ一年間運動を展開。翌年、40歳で青年会議所を卒業後は骨髓バンクを支援するやまがたの会で運営委員長を務め現在に至る。家庭では8歳と3歳の男児の父として、わんぱく盛り子どもたちの子育てに悪戦苦闘中。



小野寺 南波子

(骨髓バンクを支援するやまがたの会会長)

三男が白血病を発病し、2年半の闘病の末旅立った。平成3年12月、(財)骨髓移植推進財団(現:日本骨髓バンク)が発足し、非血縁者間骨髓移植の第1例目を実施されたのが、息子の死から3か月後だった。平成7年2月、当会が発足。3年後に会長に就任(三代目)、現在に至る。主な活動:骨髓バンク地区普及広報委員、ドナー登録説明員。患者相談、「マモのメッセージ展」の開催、及び貸出。「いのちの輝き」講演や出前講座の講師など。

フォーラム「心のバリアフリーセミナー」

骨髓ドナー提供を必要とする方だけではなく、健常者と障がい者が共に輝くための「心のバリアフリー」とユニバーサル社会の実現をテーマにした講演会を実施します。



(一社)山形バリアフリー観光ツアーセンター 代表理事 加藤 健一 氏

21歳で筋ジストロフィーという難病を患い現在車いす生活を送っている。地域と心のバリアフリー化を通して「誰もが住みよいまち」をつくらうと2014年に仲間と共にボランティア団体「Gratitude」を立ち上げ活動を展開。2016年4月に一般社団法人山形バリアフリー観光ツアーセンターを設立。バリアを魅力に変えるという新しい発想で山形の魅力を全世界に発信し、おもてなし観光日本を目指し活動を進めている。2018年に株式会社夢源を設立。就労継続支援B型事業所LUNA(ルーナ)を開設し、障がい者支援、障がい者の雇用問題にも取り組んでいる。